

(1)事業の概要等

令和6年度 事務事業評価シート

事業番号		B0604-3		事務事業名			BCG予防接種個別接種化事業			事業期間			平成4年度		～	令和8年度以降				
実施計画事業		○																		
実施計画事業以外の事業				担当部			健康生きがい支え合い推進部			担当課・担当係			保健センター 予防検診係							
事業の概要	小牧市まちづくり推進計画(R5年～R8年)	分野別計画編	基本 施策	6	展開 方向	4	事業・予算区分		一般事業		款	4	項	1	目	2	大	3	中	1
	根拠法令・個別計画		予防接種法						対象 (何・誰を対象に)		1歳に至るまでの間にある者に対し、予防接種を行う									
	目的 (何のために)		結核は、結核菌の感染により起こる病気である。結核患者はかなり減少しているが、大人から子どもへ感染することが未だに見受けられる。結核に対する抵抗力(免疫)は母親からお腹の中でもらうことができないため、生後間もない乳児が結核にかかる可能性もある。BCG接種には髄膜炎や粟粒結核などの重症になりやすい乳幼児期の結核を防ぐ効果が確認されてるため、法により生後1歳までに接種が決められている。 このように、乳児の結核への罹患を予防する目的で実施している。						内容 (どのような方法で)		・かかりつけ医による個別接種 経皮接種用乾燥BCGワクチンを使用し、生後5月に達した時から生後8月に達するまでの期間を標準的な接種期間として1歳に至るまでの間に1回接種をする。 また、市内実施医療機関、愛知県広域実施医療機関のほか、里帰り出産の場合は県外の医療機関で個別接種を行う。									

(2)事業費

事業費	項目				単位等	R2	R3	R4	R5	R6	
	直接経費	決算額	財源	一般財源	千円			11,346	10,515		
				国・県支出金				0	0		
				その他				0	0		
			計(A)			0	0	11,346	10,515		
			対前年比			%	—	—	—	92.68%	
		予算額			千円			13,348	12,372	12,155	
	人件費	正規職員			人			0.1	0.1		
		正規職員(平均賃金)			千円	0	0	749	749		
		その他職員			人			0.2	0.2		
		その他職員(時給×時間)			千円			426	426		
		計(B)			千円	0	0	1,175	1,175		
	事業費合計(C=A+B)				千円	0	0	12,521	11,690		

(3)業績

展開方向における指標の推移	基本施策	6	指標名		単位	方向性	基準値	R5	R6	R7	R8
			1								
	展開方向	4	2								
			3								

指標	指標ほか		単位		R2	R3	R4	R5	R6	
	成果指標	BCG予防接種接種率	%	目標	—	—	100	100	100	
				実績	—	—	103.4	98.8		
					目標					
					実績					
	活動指標	未接種者への勧奨通知	回	目標	—	—	1	1	1	
				実績	—	—	1	1		
					目標					
					実績					
	単位あたり 事業費	受益者数(a)		人	—	—	973	915		
受益者あたり事業費(=C/a)		円	—	—	12,868	12,775				

(4-1)事業の評価

事業の 評価	事業の方向性	維 持(改 善)	事業のボリュームは現状規模で維持するものの、手法の改善をするもの								
	事業の達成状況と課題	令和5年度は、BCG予防接種個別接種化事業を実施した結果、成果指標は目標値に近似したものの目標値には未達であった。しかし、集団接種で実施していた時と比べても接種率に差異はなく、実施できている。今後も成果指標に近づけるよう未接種者への勧奨通知も継続して実施していく必要がある。 対象者数は国の基準日の人数になるため、転入等により令和4年度は100%を超えている。 接種を忘れないように生後10か月の時点で勧奨通知を送付しているため、残りの人は体調等の都合により未接種と思われる。長期療養児に対しては、接種可能になった日から起算して2年を経過する日までの間は定期接種対象者として接種が可能(ただし、BCG接種は4歳未満)。 また、長期療養児以外の方でも1歳から4歳未満は自費で接種は可能である。		今後の実施内容・今後の改善内容	予防接種法の定期接種に位置付けられていることから、今後もしっかりつけ医で接種ができるよう個別接種を実施していく。 個別接種により、他の予防接種との間隔などとも調整がしやすく、接種のスケジュールを組みやすくなったと思われる。 未接種者への勧奨通知は、継続して個別に通知し、接種期限内の1歳未満で接種が完了するように周知徹底していく。						
	改善の有無	無		事務事業評価による額	千円 節 細節 細々節						
	これまでの改善内容	保健センターを会場とした集団接種から市内医療機関で接種する個別接種に切り替わったことにより、接種場所の増加(約20か所)、月3回の実施から医療機関が実施する日程に変更になり、接種機会の増加に繋がった。令和5年度では、現行のBCG予診票(日本語、ポルトガル語、スペイン語、英語)に加えてベトナム語版の予診票を作成した。									

(4-2)事業継続の可能性(事業のスクラップ可能性)

事業分析	評価項目		評価結果	評価結果を判断した理由
	妥当性	行政が公費を投入して実施することが妥当か(対象を見直すことはできないか)	妥当である	予防接種法に基づく定期接種である。 また、国の方針により集団接種から個別接種に変更し、市内医療機関の協力を仰いでいる。 行政が実施することが妥当。
	有効性	廃止・休止した場合に住民が影響を受けるか	多くの住民に影響がある	同上
	効率性	サービスを低下させずに総事業費を削減できないか	現状のままでよい	令和4年度より集団接種から個別接種へ変更。 被接種者の健康管理をしているかかりつけ医が健康状況を的確に把握したうえで接種することがサービス向上となるため現状のまま個別接種の方法とする。 BCG予防接種は、ワクチン代と接種料等で構成されており、削減は難しい。
		外部への委託や類似事業との統合により事業費の削減の余地はないか	現状のままでよい	同上
	公平性	受益者負担は適正か	適正である	定期予防接種のため受益者負担なし なお、予防接種法においてこの予防接種は、定期接種A類疾病であり、接種の費用負担は市町村負担(9割程度が地方交付税措置されているが、本市は不交付団体)で、一部を実費徴収可とされているが、結核という感染症の発症や重症化、まん延防止という全体的影響を考えると、受益者負担をなくし、対象者全員が接種することが望ましい。